

温暖化の影響？

というわけで、9月になると九州西方を立て続けに台風が駆け抜けていった。スーパー台風とはならなかったのは、不幸中の幸いということだろうか？被害に遭われた方々へ心からお見舞い申し上げます。

さて、スーパー台風とは何者か？ググってみると、「米軍合同台風警報センターによる台風の強さを表す階級の中で最も強い区分に該当するもので、平均の最大風速が67m/s(130knot)以上の極めて強い台風を『スーパー台風』と定義する」とのことである。他にもフィリピンや香港、マカオ、中国などでそれぞれの定義があるらしい。気象庁では「猛烈な台風」がほぼそれに当たるとのことである。

ご存知のように、熱帯低気圧(台風)の勢力が強くなるのは、水蒸気の凝結により放出される潜熱(エネルギー)のためである。また、それが温帯低気圧との大きな違いだそうである。夏から秋にかけて南海上の海水温が高くなると、熱帯低気圧への水蒸気の供給が多くなり、より多くの潜熱が供給される、つまり台風の勢力が強くなることに繋がる。気象庁の発表では、2020年7月の西太平洋熱帯域の海面水温は、基準値より高い値だったとのことである。この夏は台風が発達して、強い勢力となる条件が揃っていたらしい。

となると、地球の温暖化は海面水温の上昇に繋がり、台風のエネルギー源である水蒸気の供給が増え、台風の勢力は増大するであろうことは容易に想像できる。実際に地球表面の気や海洋の平均温度は、1896～1900年頃に比べ0.75℃ほど



上昇しており、1979年以降の観測では下部対流圏温度で10年につき0.12～0.22℃の割合で上昇し続けているそうである。スーパー台風が発生しやすくなっているということであろう。

一方、海面水温の上昇は発生する水蒸気を増やすが、それと同時に上空での潜熱の放出も増加するため、海面付近と上空との気温差が少なくなる。このような条件下では強い上昇気流が生まれにくく、台風の発生も妨げられることになるとも考えられるらしい。温暖化が進むと、強い台風の発生数は増加するが全体の台風発生数は減少するとも考えられている。

この先も地球の温暖化は進むようである。また、これまでも地球は、暑くなったり寒くなったり、赤道領域まで氷に覆われたり、極地から氷床が消失したり、氷床の増減により海面が100mぐらい上下するなどの変化を経験している。スーパー台風で驚いてはいけないうことか？

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090

【ホームページアドレス】<http://www.mmm-inoue.co.jp/mb>

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。